

伴走支援の取組事例(地域の足)(観光の足)

首長等訪問



- **自治体**
北海道富良野市市街地周辺地区
人口2.2千人、面積50km²
(今後検討×対応時期未定に対応)
- **訪問日**
令和7年8月4日

課題認識

- ・夏と冬の観光シーズンにインバウンド客の増加に伴いタクシーの需給が逼迫し、地元住民・観光客の移動手段が不足
- ・路線バス、タクシーなどでドライバーが不足



日本版ライドシェア導入に向けた伴走



(記者会見についてXへ投稿)

● 自治体・事業者間調整

富良野エリアに存在する複数の自治体・事業者に、富良野市で日本版ライドシェア導入を進める旨、橋渡し・調整を実施

● 観光関係者への情報提供

富良野エリアの広域観光協議会において、富良野市で日本版ライドシェアが導入されドライバー募集が行われる予定について情報提供

● 記者発表

運行開始に向けた記者発表会見に旭川運輸支局長が同席し、日本版ライドシェアについて説明



成果

● 富良野ライドシェア概要

(運行開始日) 12月6日
(曜日及び時間帯) 全日16時～翌1時
(営業区域) 富良野市(富良野圏)
(許可を受けた車両数) 2者10両

● 運輸局の今後の支援

・地域への日本版ライドシェアの周知に協力しつつ、実施状況をフォローするとともに、他の要モニタリング地区の課題解消にかかる事務打合せ・事業活用にかかる協力などの伴走支援を引き続き実施

「交通空白」地点



ウポポイ（民族共生象徴空間）



マザーズプラス

JR白老駅（北海道白老町）

➤ 既存の取組

JR白老駅周辺には、ウポポイ（民族共生象徴空間、以下「ウポポイという」）、マザーズプラスといった観光スポットが点在している。駅を起点とする二次交通としては、バス事業者が運行する幹線系統のほか、白老町が町内運行している地域循環バス「元気号」及び交流促進バス「ぐるぽん」（以下「公共ライドシェア」という）が地域の足と観光の足を支えている。これらの利用促進のため、「バスの乗り方教室」や、町内を運行する地域公共交通の情報をまとめた「白老町地域公共交通ガイドブック」の配布等に取り組んでいる。

➤ 「交通空白」の課題

- ・タクシー等二次交通サービスの提供について【やや課題がある】
タクシーが慢性的に不足している一方、公共ライドシェアは、インバウンドを含め利用者が少ない。
- ・わかりやすい情報発信について【大いに課題がある】
観光協会のホームページに観光施設等への二次交通アクセス情報の掲載がない。

交流促進バス「ぐるぽん」



ヒアリング



➤ 内容

白老町と運輸局担当者等との打合せにて、地域の課題整理と課題解決へ向けた実証事業案を検討。

➤ 打合せ実施日

第1回：令和7年10月14日、第2回：令和7年11月11日（web）、第3回：令和7年12月2日（web）

➤ 課題解決へ向けた提案

- ・新たな路線の実証運行及び乗降調査による、観光の足の潜在的需要を確認。
- ・二次交通アクセス情報の提供による、利便性向上及び公共ライドシェアの利用促進。

方針



実証事業として、町と連携し以下の取組を実施予定。

- ① 宿泊施設～JR白老駅～ウポポイを結ぶバスを、宿泊施設のチェックイン・アウト及びJR白老駅の特急発着の時間帯にて運行。
- ② 観光協会のホームページに多言語化した二次交通アクセスサイトを新たに作成。
- ③ 観光イベント及び二次交通アクセス情報のSNSによる多言語発信により、誘客促進と利便性向上を図る（SNSから観光協会HPへ誘導）。

首長等訪問



- **自治体**
福島県浪江町 全域（「交通空白」地区）
町内居住人口2.4千人（R7.10月現在）、
面積223.1km²
（集中対策期間に対応）
- **訪問日**
令和7年10月31日

自治体の課題認識

- ・帰還者・移住者増による**スクールバスの不足**
 - ・**夜間における地域の足の不足**
- 既存のデマンド交通を活用して対応を検討
（R7年度「交通空白」緊急対策事業活用）

事務打合せ



- **内容**
 - ・学識経験者を交えた打合せを実施
 - ・「交通空白」解消緊急対策事業に係る伴走支援（関係省庁や福島県と連携）
- **意見交換会実施日**
 - 第1回 令和7年 6月23日
 - 第2回 令和7年 8月28日
 - ※年明け以降も実施予定
- **打合せ実施日**
 - 第1回 令和7年 8月20日
 - 第2回 令和7年10月16日
 - ※年明け以降も実施予定

課題解決へ向けた提案

- （スクールバスの不足について）
 - ・児童と一般客の混乗につき**地域住民との丁寧な合意形成が必要**
 - ・保護者の理解を得るため**乗車体験の実施を提案**
- （夜間における地域の足の不足について）
 - ・**運転手確保のための持続可能な仕組みが必要**

方針

自治体

- ・児童と一般客の混乗について乗車体験を検討中
- ・運転手確保のためのシミュレーション、飲食店へのヒアリングを実施
- ・**今年度中に浪江町地域公共交通計画（仮）を策定予定**

運輸局

- ・地域公共交通計画の策定や、既存デマンド交通を活用した課題解決のための取組みについて**運輸局が主体**となって前に進める

「交通空白」地点



森岳駅



三種町の特産品「じゅんさい」の摘み採り体験

● 森岳駅（秋田県三種町）

- ・周辺の状況：森岳駅を起点として、森岳温泉、惣三郎沼公園の桜、じゅんさい摘み採り体験、秋田犬との健康ウォーキング、釜谷浜海水浴場等の観光スポットが四方に点在
- ・既存の取組：事業者の理解・協力のもと、住民共助による公共ライドシェア（ふれあいバス・巡回バス）を運行
- ・二次交通サービスの提供の課題：ふれあいバス・巡回バスの運行は、平日に限定。観光客の利用も可能ではあるものの、定時定路線型運行であるため、森岳駅から観光スポットにダイレクトで向かうことが難しい
- ・わかりやすい情報発信の課題：ウェブサイトでの多言語による交通アクセスの案内が不足



ヒアリング

● 内容

- ・運輸局担当者と自治体担当者との打合せを実施
- ・自治体の具体的な課題と課題解決に向けた事例共有を実施

● 打合せ実施日

- ・令和7年11月6日

● 参加者

- ・三種町企画政策課/東北運輸局観光部/一般社団法人あきた白神ツーリズム（DMO）/
森岳観光タクシー有限会社（交通事業者）

● 課題解決へ向けた提案

- （二次交通サービスの提供の課題について）
- ・ふれあいバス・巡回バスについて土日、祝日も運行。観光スポットが点在しているため、区域運行型の運行も実施
- （わかりやすい情報発信の課題について）
- ・観光スポットを効率的に周遊できるよう自治体とDMOとが連携し情報発信を強化



方針（又は新たな取組）

● 自治体

- ・ふれあいバス・巡回バスについて、事業者の協力のもと、観光客向けに土日、祝日運行や、予約制による区域型運行の実現に向け検討
- ・森岳駅周辺の観光スポットを効率的に周遊できるようDMOと連携した情報発信について検討

● 運輸局

- ・公共ライドシェアの効果的な運用に関する助言
- ・観光地域づくりのための支援メニューの情報提供

「交通空白」地点



【川治温泉駅前】

● 鬼怒川温泉駅、川治温泉駅、川治湯元駅（栃木県日光市）

・「交通空白」の課題（わかりやすい情報発信）

雄大な渓谷美に彩られた関東有数の温泉地である鬼怒川温泉や、古くから旅人の疲れを癒やしてきた静かな温泉郷である川治温泉には年間それぞれ約109万人、約4万3千人と多数の宿泊者が訪れているが、最寄り駅には以下の課題がある。

- ・「鬼怒川温泉駅」：駅前にタクシー事業者の連絡先がなく、観光客から観光協会に連絡先を聞かれることが多い。
- ・「川治温泉駅」、「川治湯元駅」：タクシーの常駐がなく、鬼怒川温泉駅から配車を依頼する必要がある、タクシー到着までに時間がかかる（40分以上かかることも）。



ヒアリング



【鬼怒川温泉駅】

● 内容

- ・運輸局担当者と自治体担当者との打合せを実施
- ・運輸局担当者と観光協会担当者との打合せ実施
- ・現地調査（鬼怒川温泉駅）

● 打合せ実施日

第1回 令和7年11月7日（オンライン）

第2回 令和7年11月13日

※第1回は日光市、第2回は日光市観光協会

● 課題解決へ向けた提案

〈 デジタルサイネージを用いた情報発信 〉

鬼怒川温泉駅において、デジタルサイネージでバスの時刻情報、タクシー事業者連絡先等の情報発信を提案

〈 鉄道（特急）車両での情報発信 〉

特急車両において、バスの時刻情報、タクシーの連絡先等が記載されたパンフレット（QRコード）での情報発信をし、配車待ち時間の縮減を提案

方針（又は新たな取組）



● 自治体

- ・運輸局が行う実証事業についての協力
- ・今年度の効果検証確認後、次年度に向けた取組について検討したい

● 運輸局

- ・実証事業に向けて事業者等と調整
- ・次年度以降のヒアリングなどの伴走支援を実施

首長等訪問



● 自治体

新潟県加茂市

- ・市全域（人口26千人、面積39km²）
- ・七谷地区（人口1千人、面積14km²）
- ・須田・西地区（人口4千人、面積10km²）
- …今後検討×対応時期未定（要モニタリング地区）

● 訪問日

令和7年10月22日

● 訪問時の課題認識

- ・市内において令和10年中学校統合、令和12年小学校統合を予定。
- ・このためスクールバスの対象者が増加、移動距離も長くなる一方、ドライバーも車両も不足。⇒市営「かもんバス」の再編が必要。
- ・また市内交通網は広くありつつも、イベント実施時など一時的な需要増への効率的な対応が課題。

事務打合せ



▲市内公共交通マップ

● 内容

- ・学校統合を見据えた市営バス再編に当たっては、市として**利便増進事業としての実施**を検討中。
- ⇒各地区の沢まで伸びる支線を統合後の学校どまりとしつつ、各地区をまたぐ幹線を学校経由へ。
- ・既存スクールバスとの役割分担も今後検討。

● 打合せ実施日

令和7年11月18日

※今後、検討状況に合わせて順次実施予定

● 課題解決へ向けた提案

(路線再編について)

- ・利便増進事業として位置づける上での**要件整理**
- ・再編を通じた域内交通に係る**収支率の精査**

(既存スクールバスについて)

- ・市営バス再編を踏まえたスクールバスの車両や人員の効率化に向けた**教育部署との連携**

方針



● 自治体

- ・市営バス再編に向けた運行事業者など**関係者との調整**
- ・利便増進事業の**内容精査**、計画作成
- ⇒R9年度中の**計画認定**を目指す

● 運輸局

- ・計画内容に関する**事前協議**、アドバイス
- ・事業実施に当たって他活用可能な**制度・補助金等の案内**

「交通空白」地点

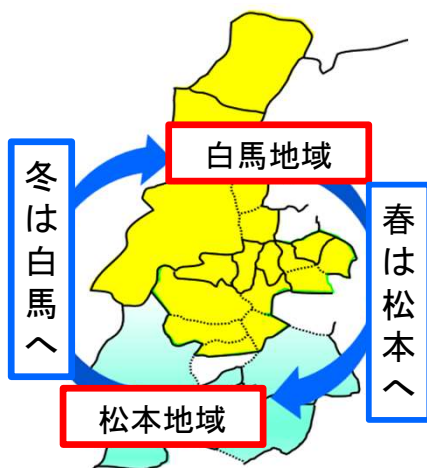


● 白馬駅 (長野県北安曇郡白馬村)

- 旺盛なインバウンド需要により、降雪期におけるタクシー車両の供給が需要に追いついていない。
- スキー場施設が駅や宿泊施設の集積地から遠く、二次交通の整備が常に課題。



ヒアリング



● 内容

- 白馬村観光局に対し、昨冬シーズン・今冬シーズンにおけるタクシーをはじめとした二次交通に関する懸念点をヒアリング。
- 昨冬はタクシー供給が不足していたこと、今冬も海外からの来訪者数が大きく伸びる可能性が高く、昨年同様にタクシー供給に不安があるとの声が寄せられた。

● 打合せ実施日

第1回 令和7年10月16日 (電話)
第2回 令和7年11月26日 (対面)

● 課題解決へ向けた提案

【取り扱いの緩和によるタクシー車両の増加】

- 白馬村の課題について、当局自動車交通部、長野運輸支局と共有。
- 冬季需要の少ない松本地域から、白馬地域へのタクシー車両の配置転換を、タク措法に基づく準特定地域である松本地域等の条件緩和により、円滑に進められないか検討。

方針 (又は新たな取組)

<本取組による効果>

- 準特定地域における営業方法の制限の弾力的な運用に関する通達を発出。(R7.11.13)
- シーズン終了後に準特定地域へ戻す車両の条件を緩和。(制度ではUD等の車両の導入が条件となっているが一般車両も可。)
- 結果、松本交通圏のタクシー事業者が保有する車両21台を白馬、大町地域の同社営業所に配置転換し、通常期の約1.5倍の車両数で冬季需要に対応する。

<その他課題解決に向けた取組>

- 「オーバーツーリズムの未然防止・抑制による持続可能な観光推進事業」により、白馬村内の周遊バス並びにスキー場施設と大町温泉郷 (宿泊施設) 間のシャトルバス実証運行を実施。飲食店や宿泊先における混雑分散化を図る。

「交通空白」地点

● 清水港（静岡県静岡市）

- ・「交通空白」の課題（二次交通サービスの提供）
- ・多くのクルーズ船が寄港する清水港において、富士山周辺等を観光するクルーズ客のタクシー需要が増加しているが、既存のタクシー事業者のみでは輸送力や英語対応ドライバーが不足

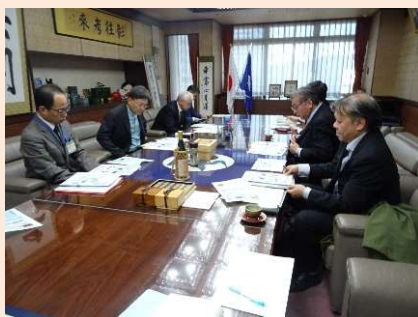


＜清水港＞

＜富士山周辺等観光スポット＞



ヒアリング



● 内容

- ・「共創モデル実証運行事業」を案内 →採択
- ・運輸支局と自治体及び清水港関係者と複数回打合せを実施
- ・地元通訳案内士からの相談（海外旅行エージェントとの関係等）について、運輸局観光部にて対応
- ・運輸局長による首長訪問の実施

● 課題解決へ向けた提案

- 輸送力不足の課題について
 - ・日本版ライドシェアの取組の実施（共創プロジェクトの活用）
 - ・地元が開催する協議会への参画（道路運送法に基づく助言等）
 - ・インバウンドに係る事例紹介 等



方針（又は新たな取組）

● 自治体等

- ・「しみず港クルーズ客船タクシー観光推進プラットフォーム」の構築（英語対応のタクシー及び日本版ライドシェアの拡大、関連企業間の連携強化、周辺地域との連携強化）



● 運輸局

- ・道路運送法に基づく助言及び日本版ライドシェアの許可等
- ・インバウンドに関係する各種相談対応
- ・各種補助事業の紹介

首長等訪問



R7.5.30 締結式

- **自治体**
京都府八幡市の3地区（「交通空白」地区）
人口23.2千人、面積10.9km²
- **訪問日**
令和6年8月27日 地域連携サポートプランのご案内
令和7年5月30日 地域連携サポートプラン協定締結式

● 訪問時の課題認識

- ・コミュニティバスの維持・活性化
- ・持続可能な公共交通の運営
- ・運転士などの担い手の確保
- ・地域特性に合わせた交通体系の形成

事務打合せ



地域連携サポートプランとは

自治体における公共交通に関する課題について、地域との意見交換等を経て、運輸局から解決策の提案を行う近畿運輸局独自の取組（平成28年度から実施、25自治体と協定締結）



R7.9.11 現地視察

- **内容**
・八幡市と運輸局、運輸支局で打合せを実施
・自治体の具体的な課題と課題解決に向け現地訪問や事例共有を実施
- **打合せ実施日**
令和7年2月6日、令和7年6月16日、令和7年7月22日、令和7年9月11日
- **現地調査及び事業者等との意見交換**
令和7年7月16日、令和7年7月22日、令和7年7月29日、令和7年9月11日

提案書交付（令和7年11月20日）



● 課題解決へ向けた提案

- ・利用実態を把握したうえでのコミュニティバスの再編
- ・雇用者確保のための行政の積極的な支援
- ・適切な費用負担による持続可能な公共交通の運営
- ・地域の輸送資源を活用した交通の確保



方針



● 自治体

- ・現在の利用状況を十分に踏まえたうえで路線の再編を実施
- ・利用実態や利便性を分析し、適切な運賃水準について関係者間で協議

● 運輸局

- ・財政支援の活用や事務打合せ等の伴走支援を継続的に実施する

「交通空白」地点



● 江原駅（兵庫県豊岡市）

江原駅は兵庫県豊岡市南部に位置し、駅周辺には、出石城下町や神鍋高原、植村直己冒険館など多彩な観光資源に恵まれ、歴史・自然・文化体験が楽しめる地域。近年では江原河畔劇場の開館などにより、地域文化の発信拠点としても注目されている。

一方、二次交通は路線バスやコミュニティバス、タクシーを中心に、観光地へのアクセス手段として機能しているが、観光客が多く訪れる出石城下町や神鍋高原方面へのバスなどで、利用が多く見込める土・日には大幅に減便されるなど、観光客にはダイヤがわかりづらく、利用しづらい状況。

また、駅周辺のバス停が行き先により東西3箇所があり、観光客にとっては行き先ごとに異なるバス停の情報や場所がわかりづらく、観光案内や行き先表示も少ないなど、観光客への交通に関する情報提供が不足。

ヒアリング



江原駅西口



江原駅東口

● 内容

- ・ 地元交通事業者との打合せを実施し、江原駅の二次交通の現状や課題を確認するとともに、課題解決に向けた具体的取組案の内容をヒアリング。
- ・ 実証事業事務局と地元交通事業者とのキックオフミーティングを実施。

● 打合せ実施日

- ・ 第1回 令和7年10月6日
- ・ 第2回 令和7年11月5日（オンライン）

● 課題解決へ向けた提案

（土日減便の課題について）

- ・ 観光需要に対応した乗合タクシー導入の可能性について提案。

（情報提供の課題について）

- ・ 駅～バス停の簡略図や、わかりやすい行き先表示を掲載したポスターの掲出に向けて、江原駅（JR）との協同や、同駅内施設の活用。

方針（又は新たな取組）

● 交通事業者

- ・ JRと連携した江原駅に関する二次交通の情報発信（多言語化含む）を検討。
- ・ 駅・市内観光地の交通で、観光（観光の足）に特化した冊子の発行、看板の設置を検討。

● 運輸局

- ・ 実証事業を活用しながら、課題解決に向けて支援。
- ・ 運輸局交通企画課や運輸支局とも情報共有・連携しながら、伴走支援を継続的に実施する。

首長等訪問



● 自治体

岡山県高梁市

落合町福地(しろち)地区(「交通空白」地区)

人口0.27千人、面積6.68km²(検討中×速やかに対応)

成羽(なりわ)地域(「交通空白」地区)

人口2.15千人、面積41km²(検討中×速やかに対応)

ほか要モニタリング地区:5地区あり

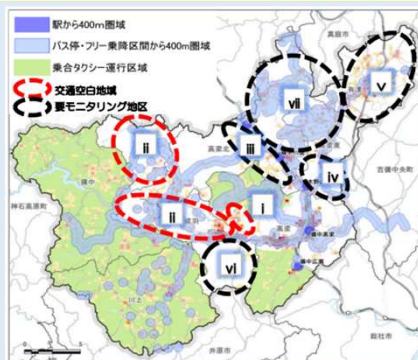
● 訪問日

令和7年10月15日

● 訪問時の課題認識

- ・生活福祉バスは、**運行便数が少なく、利用機会が限られている。**
- ・乗合タクシーは、通院利用を想定して余裕をもって帰り便時刻を設定しているため、**帰り便まで待ち時間が生じることがあり、改善が求められている。**

事務打合せ



▲高梁市の交通空白の状況

出典:高梁市WEBサイト

R7.8.18_第2回高梁市地域公共交通会議資料より

● 内容

- ・運輸支局担当と市協働定住課担当で打合せを実施
- ・道路運送法上の手続きと財政支援の活用について相談

● 打合せ実施日

令和7年11月7日

● 課題解決へ向けた提案

(道路運送法上の手続きについて)

- ・オンデマンド型乗合タクシーを順次導入していくに当たり、道路運送法に関するアドバイスや他地域事例の共有を実施。

(財政支援について)

- ・交通空白地区に対する財政支援メニューの確認と活用に向けてのアドバイスを実施。

方針



● 自治体

- ・既存の生活福祉バス・乗合タクシーについて、**オンデマンド型乗合タクシーへ見直し**の検討を行う。
- ・次年度以降から実証運行を行う予定としており、「交通空白」解消関連補助事業の活用を検討中。

● 運輸局

- ・オンデマンド型乗合タクシーの導入、及び「交通空白」解消関連事業の活用に向けて、**事務打合せ等の伴走支援を継続的に実施。**

「交通空白」地点

● 津和野駅（島根県津和野町）

- 島根県の南西に位置し、山口県との県境でJR山口線「SLやまぐち号」の終着駅
- 町内にある情趣ある石畳と掘割の鯉が織りなす町並みは「山陰の小京都」と呼ばれる
- 日本五大稲荷の一つ「太鼓谷稲成神社」や天空の城として知られる「津和野城跡」(共に駅から徒歩30分)がある

課題

JR山口線を経由して到着した小さいお子様連れが駅から観光地まで移動できる手段が少ない

現状

自治体が運営するシェアサイクル及び民間4社が運営するレンタサイクルを実施



津和野町シェアサイクルポート

分かりやすい情報発信

バス停や観光地において津和野町内の観光コンテンツや移動手段を検索できるツールが不足している

津和野駅前広場にデジタルサイネージを設置



津和野駅デジタルサイネージ

伴走支援活動



令和7年7月3日 第1回打合せ時

● 内容

- 運輸局・津和野町観光協会・津和野町の3者で打合せを実施
- 課題を深掘りし、課題解決に向けた観光協会の構想と既存の取組をヒアリング

● 打合せ実施日

- 第1回 令和7年7月3日（対面）
- 第2回 令和7年10月3日（オンライン）
- 第3回 令和7年10月28日（対面）
- 第4回 令和7年11月14日（オンライン）

● 課題解決へ向けた取組

実証実験を実施（予定）

実施期間：令和7年12月末～令和8年1月末

二次交通サービスの提供

- レンタサイクルに「子ども乗せ電動自転車」を追加配置
- 津和野町と連携した「シェア・レンタサイクル利用促進キャンペーン」を実施

分かりやすい情報発信

- 町内の主要スポットにデジタルサイネージを追加設置（津和野駅待合室、道の駅なごみの里）

実証実験後の方針

● 津和野町観光協会・津和野町

効果および有効性についての実証結果を活用し、観光地として必要な二次交通サービスの導入に向けた検討材料とする

● 中国運輸局

令和8年度に活用できる支援メニューを提示し、本格導入に向けた伴走支援を実施する

首長等訪問



運輸局長が日高村の松岡村長を訪問

● 自治体

高知県日高村全域（「交通空白」地区）
人口4.7千人、面積44.88km²
（検討中×速やかに対応）

● 訪問日

令和7年12月1日

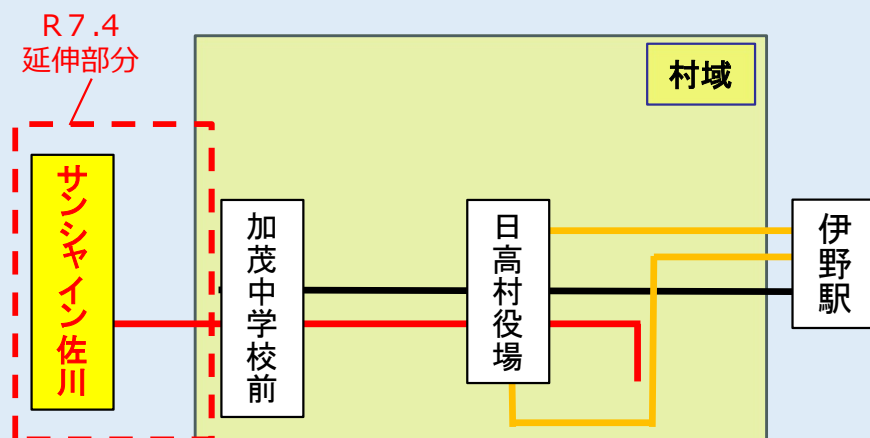


● 訪問時の現状・課題認識

- ・昨年村内唯一のスーパーが閉店したため、今年4月に周遊バスのルートを見直し、隣接自治体のスーパーへの乗り入れを実施。今後は周遊バスの利便性を更に向上させたいと考えているものの、住民のニーズを把握することが出来ていない
- ・深夜はバス・タクシーの運行が無く「交通空白」が発生

事務打合せ

<周遊バス路線図>



R7.4からルート変更。佐川町のスーパー（サンシャイン佐川）まで延伸

同日、村と本局、支局、高知県の4者で事務打合せを実施

● 打合せ内容

- ・周遊バスの概要やタクシーの現状を伺い、課題解決に向けた提案を実施
- ・その他、運輸局から地域公共交通計画の策定支援ツールや補助制度を紹介し、高知県から県内の地域公共交通計画の事例を紹介

● 課題解決へ向けた提案

- （周遊バスの再編・地域公共交通計画の策定について）
- ・地域公共交通計画策定の一環で住民の移動実態を把握・シミュレーションすることで、必要に応じて周遊バスの再編を行うことを提案（夜間の「交通空白」について）
- ・同様の課題を抱える近隣自治体と連携して移動の足を確保するため、複数の自治体に跨る移動の足確保の取組事例について情報共有

方針

● 自治体

- ・地域公共交通計画の策定に向け準備中（R8年度策定予定）計画策定過程での、住民のニーズ調査の実施について検討中
- ・周遊バスの利便性を高めるため、隣接自治体の公共交通との連携の方策について、高知県とも連携して検討

● 運輸局

- ・地域公共交通計画の策定に向け、財政支援活用の働きかけや活性化協議会への参加を通じた知見の提供等を実施
- ・夜間の「交通空白」解消に向け、事例紹介や近隣自治体との橋渡し等の支援を実施

「交通空白」地点



● 新居浜駅（愛媛県新居浜市）

・「二次交通サービスの提供」について大いに課題あり

主な課題：タクシー等がないまたは不足している／路線バスの本数が少ない

・既存の取組

「Hello！NEW新居浜Scooter」は、新居浜市内を安価で自由に移動する新しい移動手段として、2024年12月よりサービスが開始された。地域交通の課題解決を目的とした日常生活での利用に加えて、交通ルールの周知や安全対策も講じつつインバウンドも視野に入れた観光客の利用促進を目指しているが、現状、電動キックボードのみの提供であるため、若者の利用が中心となっている。



ヒアリング



● 内容

- ・運輸局担当者と観光物産協会担当者との電話打合せを実施
- ・後日自治体を含め、具体的な課題と課題解決に向けた案を共有

● 打合せ実施日

第1回 令和7年10月9日（電話）

第2回 令和7年10月22日（電話）

● 課題解決へ向けた提案

現状の電動キックボード提供は若者の利用が中心となっているため、幅広い世代が利用できる電動自転車を実証実験として導入することで、二次交通のサービスとしてさらに活用範囲を広げ、利便性の向上を図る。



方針

● 自治体

- ・四国運輸局等と連携し、実証計画を策定する。
- ・関係者への協力依頼を行い、実施体制を整える。

● 運輸局

- ・実証実施にかかる事務打合せ等の伴走支援を継続的に実施する。
- ・アンケート調査の実施等で実証の効果を検証する。

首長等訪問

● 自治体

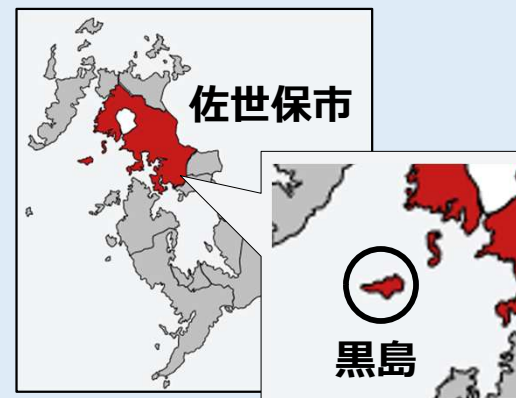
- ・長崎県佐世保市黒島地区 人口 0.3千人、面積 4.66km²
(「交通空白」地区、検討中×集中対策期間に対応)
- ・長崎県佐世保市大野地区 人口 3.7千人、面積10.75km²
(「交通空白」地区、実施中) 他14地区

● 内容

- ・運輸支局長が市長を訪問し、課題認識を共有しつつ、意見交換

● 訪問日

令和7年10月28日



乗合タクシー（大野地区）
(出典：佐世保市ホームページ)

● 「交通空白」にかかる課題認識

- ・住民、観光客の移動手段の確保
- ・バス路線廃止に伴う代替交通の維持・確保

● 課題解決へ向けた対応

- ・財政支援の活用等に係る助言

方針

● 自治体

- ・黒島地区において、**公共ライドシェア導入に向けた実証運行を実施**（令和7年11月～令和8年1月）
- ・観光協会や交通事業者とも連携した運行体制を構築
- ・黒島地区をモデルに、**市内他地域への横展開**も検討
- ・地域公共交通計画に基づき、バス路線再編の検討を深化

● 運輸局

- ・公共ライドシェア導入（本格運行）に向けて、事務手続や財政支援等に係る**事務打合せの伴走支援を継続的に実施**
- ・バス路線再編に関する相談対応、助言



黒島地区実証運行
(出典：佐世保市ホームページ)

「交通空白」地点

● 阿蘇駅、赤水駅、宮地駅（熊本県阿蘇市）

＜主な観光資源＞ 阿蘇くじゅう国立公園

わかりやすい
情報発信

運転者不足を補うため、相乗りサービス「阿蘇らくらくWEBタクシー（※）」を導入しているものの、インバウンド客への周知広報が不足

➡ 相乗りサービスの利用促進により輸送の効率化を図り、運転者不足の中でも「観光の足」を確保する必要がある

（※）阿蘇らくらくWEBタクシーについて
阿蘇エリア及び阿蘇周辺エリアにおいて、タクシーのweb予約及び相乗りサービスを実施。



駅周辺図

各駅周辺には、阿蘇山を中心とした、多くの観光スポットがある。



● 打合せ実施日

第1回 令和7年12月3日（オンライン）
・課題共有、実施内容、スケジュール等。

課題解決に向けた取組（予定）

「阿蘇らくらくWEBタクシー」のインバウンド向け周知広報について、実証事業を実施し、効果検証を行う

① オンライン告知

— プロモーション動画を通じたインバウンド向け周知

（観光地を巡りながら、「阿蘇らくらくWEBタクシー」を紹介する動画を作成し、自治体のオンラインメディアで発信予定）

② オフライン告知

— 1 熊本空港に設置しているような販促物を駅・宿泊施設・観光施設等に拡大

— 2 駅や空港での周知強化

自治体
事業者

実証事業への協力



緊密に連携

運輸局

実証事業の実施、
実証後の地域の取組の
伴走支援

施設設置用のPOPスタンド（イメージ）



首長等訪問



- **自治体**
沖縄県竹富町西表島（「交通空白」地区）
人口2.4千人、面積289.61km²
（検討中×集中対策期間に対応）
- **訪問日**
令和7年10月8日

● 訪問時の課題認識

- ・路線バスはあるものの、1系統4便の運行であり使いづらい。特に、自家用車を持たない高齢者・障がい者の移動手段が不足。
- ・多くの観光客が来訪する島であり、観光客の移動手段についてもレンタカー中心となっている。
- ・このほか、海上交通と陸上交通のダイヤの接続にも課題。

事務打合せ



- **内容**
 - ・竹富町の担当者と打合せを実施
 - ・並行して、島内の交通事業者や観光関係者等から交通の現状と課題をヒアリング
- **打合せ実施日**
 - 第1回 令和7年6月10日
 - 第2回 令和7年10月8日
 - 第3回 令和7年11月27日

● 課題解決へ向けた提案

- （島内交通のり・デザインの方針について）
 - ・通勤・通学と船の時間等の条件を踏まえ、住民が求めるサービスを実現するための方向性について、公共RS等の制度を紹介しつつ議論
- （島内の輸送資源の活用）
 - ・スクールバスや宿泊施設・ツアーの送迎車、レンタカーの送迎車等の活用可能性について議論

方針

● 自治体

- ・バス路線の再編や新たな交通サービスの導入など、島内交通を再構築するための合意形成を進めるべく、航路事業者を含む交通事業者、地元関係者からなる意見交換・協議の場の設置に向けた検討を本格化。

● 沖縄総合事務局

- ・自治体や交通事業者等の関係者との意見交換を踏まえた論点の整理、活用可能な法制度や財政支援メニューの紹介、定期的な事務打ち合わせ等、伴走支援を実施。

「交通空白」地点



● 与那国空港（沖縄県八重山郡与那国町）

・「交通空白」の課題（二次交通サービスの提供）

与那国町（人口約1,600人、外周27km）には、現在、唯一の公共交通機関として路線バス（町営）が運行しているが、航空機、フェリーの発着に合わせた1日9便、乗降場所が17箇所（空港・港・町役場・宿泊施設）等“最低限のサービス水準”。代表的な観光地「最西端の碑」「DRコトー診療所ロケ地」その他、景勝地などは、島外縁に位置し、路線バスが届いていない。

貸切バス1社（3両）、タクシー1社（3両）、レンタカー10社（79両）。観光客数は、約43,000人（2024年）。

・これまでの取組：2018年、2019年に、与那国町とNTTドコモにて「AIが最適配車するデマンド交通（※）」を実証。

※路線バスが運行していない時間帯及びタクシーがつかまらない利用者（町民、観光客等）が、スマホアプリから乗車を予約。既存のバス停に加えてミーティングポイントを追加した上で実証。小型自家用車にて複数の利用者を、それぞれの目的地に送迎する際の配車パターンを最適化。

ヒアリング



● 内容

- ・沖縄総合事務局と与那国町及び観光庁予算による実証事業の事務局との打合せを実施
- ・与那国町の具体的な課題（運転手等人材不足、収益性等）及び課題解決に向けた意見・情報交換を実施

● 打合せ実施日

第1回 令和7年11月14日
第2回 令和7年12月（予定）

● 課題解決へ向けた提案

- 運転手等人材不足の課題について、管内他地域の自動運転の実証（多良間村）等の活用事例を共有。
- “自動運転”導入に向けた一連の検討プロセスの一環として需要の調査等を実施。

方針（又は新たな取組）

● 自治体

「自動運転」導入を前提に、今年度は実証（机上）を実施し、その結果を踏まえ、次年度以降、実際に自動運転による地域の足・観光の足の両面を確保する実証運行を計画。

● 運輸局

国土交通省、観光庁予算の活用等、与那国町における実証に向けた伴走支援。